

マツダ病院整形外科 安達 和哉

マツダ病院整形外科の安達と申します。

私が整形外科医を志したきっかけは、高校生の頃のけがです。その際に、マツダ病院で診察して下さった先生の的確で無駄のない診察、そして患者さんに寄り添う姿勢に強い憧れを抱きました。ただ治すだけでなく、「動けるようにする」「元の生活に戻す」という整形外科の役割に魅力を感じ、自分もその一員になりたいと考えるようになりました。

研修先を選ぶ際も上記エピソードの記憶が強く残っていたこともあり、マツダ病院で研修させていただきました。実際に研修医として整形外科を回った際、その思いはさらに強くなりました。手技の正確さやスピード、診察での判断力など、どの先生も非常に洗練されており、まさに“カッコいい”と感じる場面が多くありました。骨折や腰痛、慢性疾患などの多種多様な症状を訴える患者さんに対し、迅速に評価し、最適な治療方針を提示する姿は印象的であり、自分も同じように患者さんから信頼される医師になりたいと強く思いました。ただ、それと同時に自分にそのような役割は務まるのか、という不安が強くなりました。

整形外科医として働き始めてからは、外来や手術、病棟業務など多忙であり、自分の力不足を痛感する日々でした。ただそのような状況の

中でも、多くの手術に関わる機会をいただき、経験を積むにつれ、自ら執刀させていただくことも増えました。責任の重さと同時に大きなやりがいを感じることができるようになりました。どのような手術も一つとして同じものではなく、患者さんごとに状態や背景が異なるため、常に最善を考えながら準備し臨む必要があると強く痛感しました。初めて執刀した患者さんが術後に回復し、再び歩けるようになった姿を見ると、この仕事の意義を強く実感しました。

特に整形外科は「痛み」という患者さんの主観的な症状を診ることが多く、患者さん一人ひとりの主訴は多様であり、痛みの感じ方や生活背景も異なります。画一的な対応は通用せず、それぞれに合った治療法を選択しなければならず、納得してもらうためには、丁寧な説明と信頼関係の構築が不可欠であると日々実感しています。時には期待に応えられない場面もあり、自分の未熟さを感じることも少なくありません。

整形外科医としての道は決して平坦ではありませんが、患者さんの生活の質を直接的に改善できる点に大きな魅力があると思います。今後も技術と知識を磨き続け、かつて自分が憧れたような、信頼される医師へと成長していきたいです。

## 広域化予防接種事業について、詳細を本会ホームページに掲載中

広島県医師会では、広島県内居住の方で住所地市町外の医療機関（広島県内）でも定期予防接種が受けることができる体制として、広域化予防接種事業に取り組んでいます。

### 【広域化予防接種事業】

<https://www.hiroshima.med.or.jp/ishi/yobousesshu/>

**広域化予防接種請求書等**が不足の場合は本会ホームページの注文フォームよりご申請ください。

### 【広域化予防接種請求書注文フォーム】

<https://www.hiroshima.med.or.jp/forms/vaccination/>

